

Takahama Kyoshi

×

Sakamoto Shihouda

【参考】

『郷土出身文学者シリーズ9 阪本四方太』

四方太は鳥取県尋常中学校を経て、京都の第三高等中学校に進学します。しかし明治27年、学制改革により第三高等中学校が廃止され、仙台の第二高等学校に転校した際に高浜虚子と出会いました。

四方太は虚子に俳句を教えてほしいと頼み込み、句作を始めたところ、日がたたないうちに正岡子規が選者をつとめる新聞『日本』の俳句欄に掲載されました。気をよくした四方太は、そこから俳人の道を歩み始めました。

また、四方太は虚子に俳号の命名を依頼しました。虚子は「四方太」という字面の面白さを生かし、音読みの“しほうだ”にすることを提案し、そのまま採用されました。

四方太が亡くなった後、昭和7年、虚子が追悼の意を込め旧居を訪れました。その時の様子は、『ホトトギス（第41巻第6号）』（昭和13年3月）に記されています。

た か は ま き よ し

高 浜 虚 子

と

さ か も と し ほ う だ

阪 本 四 方 太

